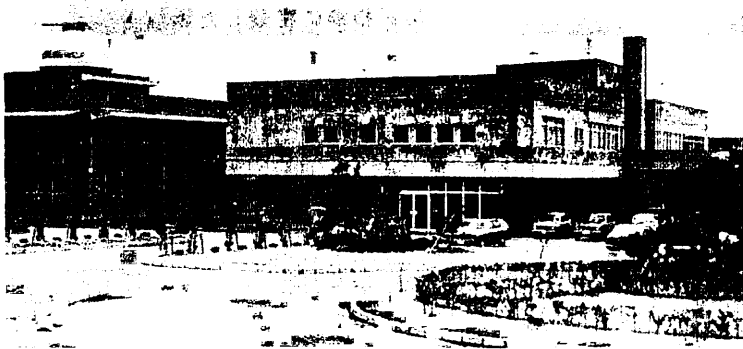


# 教育センターだより

第19号



## 目 次

教職員研修の高まりを目ざして……………	1
わが研究室の抱負と構想	
経営研究室 今井 敏雄……………	2
教科研究室 渡辺 昭次……………	2
教育相談研究室 向山 清……………	3
教育工学研究室 吉富庸四郎……………	3
理科研究室 田沼 浩三……………	4
技術家庭研究室 佐藤 温……………	4
昭和52年度研修員とテーマ紹介……………	5
告 知 板	
教育センター機構と担当者一覧……………	6
人事異動、お知らせ……………	6

## 教職員研修の高まりを目ざして



科学技術研究部長 松 田 幸一雄

文部省が全国各地で開く教育モニター会議で、父母が訴えることは「先生」に関することに集中するそうである。

東京都が最近行った「国の文教行政に何を望むか」との世論調査でも、先生の質の向上を望むとするのが過半数を占め、その次に教育内容の改善や入試制度の改善が続いているそうである。

世の中にはさまざまな職業があるが、教師という職業ほど、人そのものが問題にされる職業はないようである。それは、学校を信頼して子どもを毎日通わせている親としては、当然の願いなのかも知れない。

時あたかも、戦後30年の教育の総決算といわれる「ゆとりのある、充実した学校生活」を目指す教育課程の基準について、改善の答申がなされた。

本年を契機として、「教職員研修の充実」は、より一層教育界の大きな課題となるものと思われる。

本年度、当教育センターにおける研修講座は、講座数が幼稚園1、小学校50、中学校50、高校・特殊学校32講座となっており、参加人員数は2,307人で、県内のほぼ5分の1の教職員が参加することになる。次に研修講座の企画に当たってのねらいのうち、いくつかについて述べてみたい。

### ○ 分かる講座を

教師にとって一番大切な子どもたちは、教師に何を期待し、何を望んでいるであろうか。ある教育センタ

ーの調査報告（児童生徒の生活意識の実態）によると、小中高生とも最も期待する項目は、「だれにも分かる授業をしてもらいたい」とことと「気軽に生徒と親しんでもらいたい」とことであるという。この願いを子どもたちになえさせてやるためには、教師自らの研修による深まりが必要であり、教育センターは、そのための手助けをと願っているわけである。

### ○ 現場に根ざした講座を！

医学の場合、臨床こそが出発点であり、ゴールであるといわれる。臨床から問題が生まれて、その解決に知恵をしぼる。その結果治療に成功することが目標となる。そこで当教育センターでは、学校での授業にすぐ役立つ研修講座を、更に明日の授業にも役立つ研修講座をと念願し、常に学校での課題を掘り起こし、あるいは、講座終了時に先生方からアンケートをいただき、次年度研修講座に反映するよう配慮しているわけである。

### ○ 教育課程の基準の改善を念頭においた講座を！

記憶中心の知識伝達方式を捨て、自分の判断力を重んじる教育への質的転換を図るねらいをこめて、教育課程の基準の改善がなされたという。これに沿った教育内容・指導法等は今後一步一步築き上げていかねばならないが、試行的内容を取り入れた講座や、教育技術に関する講座等について検討を重ね、ひとりひとりの子どもをみつめ、育てる教育実践の支えにと念願している。

## 昭和62年度 “わが研究室の抱負と構想”

各研究室長が語る

## 経営研究室

今 井 敏 雄



▷ 最近学校経営の現代化についての研究がさかんになされ、各校がかかえている課題を改善しようという意欲がうかがわれる。全職員 of 創意を生かした経営のあり方を求めて、現場の実践を語り合う学校経営研修講座が、新任の教頭先生を対象に開かれる。また教務主任の先生方の学校経営研修講座では、意欲的な教育活動の展開を図るための職務内容の検討や協力態勢のあり方を追求したいと考えている。

- ▷ 学校・学年・学級の有機的なつながりを考えた学年学級経営研修講座も、小・中・高別に開かれる。現在見直されつつある学年の協力態勢や、児童生徒の力を伸ばす創意に満ちた学級経営などについて、実践を持ち寄り研修を深めるよう構想している。
- ▷ 学校事務研修講座では、学校事務の基本的な課題について具体的に研修するとともに、改善についての意見交換も企画している。
- ▷ 実践をたしかめながら改善点を見出し、経営の充実に役立てようとする学校評価法研修講座では、基準案を作成する演習も含めて研修を進める。
- ▷ 新任用の先生方を対象にした教職教養研修講座も行われる。特に各教科・領域別に教育実践についての演習をもったり、学級経営の協議を設けるなど基礎的な事柄について研修をする計画をしている。
- 今年度から教育方法研修講座が、小・中・高・特殊別に開講されるが、5か年の教育実践をふまえて、学習指導・生徒指導など専門的な事項について、つっこんだ研修をしていただくことになっている。
- ▷ なお、「学校経営の改善に関する研究」の一環として、本年度は、高校への進学率の上昇によって多様化している生徒の現状に、県内の各高等学校がどのように対応しているかという視点から実態をとらえてみることにした。そして、生徒・地域及び学校の実情を踏まえた教育課程の編成と展開のあり方、更には、教育内容の精選・構造化の手だて等についても研究を進めたいと考えている。

## 教科研究室

渡 辺 昭 次



学習指導に密着した講座を

各教科ともに、現場に生きる研修を念願しつつ、学習指導理論・授業研究実技の基礎的な面での指導力の向上に寄与する内容の編成をしている。特に本年度その重点とする講座内容を、教科別に紹介してみたい。

国語 小・中学校講座では、説明的文章・作文の指導法の理論・教材研究・授業研究を中心に内容を編成する。高校講座では、現代国語・古典の両面にわたる教材研究・作品研究を中心に、国語教育理論と指導法の関連を重視した内容を研修したい。

社会 小・中学校講座では、基礎学力を新たにとらえなおし、小学校の地域学習、中学校の歴史学習（近代）について研修する。高校講座では、生徒の歴史認識を育てる観点から、指導法を重視し、授業過程の分析を中心に研修を行う。

算数・数学 校種別に数学的な見方・考え方とその指導内容および指導法について研修する。小学校では5・6学年教材を、中学校では確率・統計教材を中心に取りあげている。また、高校では論理、写像についての講義とその演習を計画している。

音楽 小学校では、各種パーカッション（打楽器）の基礎奏法実技を中心とし、教材と関連した活用法（ポップス・リズム）や編曲法に展開させる。中学校では、ギター音楽の歴史・ギター基礎奏法実技、授業での活用法、授業研究と協議等の内容で行う。

図工・美術 小学校では、人物画の制作を行い、もののとらえ方を主とした表現技法のいろいろと、板材による工作の研修にする。中学校では、人物モデルによる彫塑の表現技法を中心に、立体的表現を研修し、現場の学習に役立てたい。

英語 講座では、集中的な音声練習を通して、主として運用力向上をめざす。特に今年度から実施するイングリッシュ・セミナーでは、LL機器の駆使はもちろん、ネイティブ・スピーカーと接することによる英会話、英語による自己表現、スピーチ・クリニック等充実した内容になるように計画している。

## 教育相談研究室

向 山 清



教師や親は、子どもとどんなふうにつきあうのが大切なのか。私たちの室で血の道あげて取組んでいるテーマは、結局そういうことである。

日本の教育は、子が目上にどうふるまうべきか、という検討が多くて、その逆の追求がなおざりにされていた。そのため、家庭でも学校でも、無益な教育當為が行なわれていることがある。

研修担当領域は、生徒指導・進路指導・特殊教育・幼児教育であるが、共通した課題は、子どもという、かけがえのない一人格に対して、おとながどうつきあうのが真の教育當為であるかという点である。要は、カウンセリング・マインドを具体的な場でどう発現するかということで、まだ確立された学問体系となっていないだけ、張り合いのあるテーマと思っている。

本年度の研究テーマは、次のとおりである。

学校教育相談に関する研究（熊谷幸正）

登校拒否に関する研究（木村志義）

自閉症児に関する研究（品川大・原香子）

特殊教育に関する研究（高井慶蔵）

いずれも、上記のテーマをどう具現するかについて、追求してゆきたい。ご協力をお願いしたい。

教育相談活動は、年々来談者が増加し、昨年度は、下表のとおり、234件に達した。内訳は、幼児53件、小学生83件、中学生70件、高校生等28件である。

前年度より、特に増加率の高いものは、登校拒否でもそれも中学生が多い。生育歴全般にわたる人間関係のひずみの蓄積という、一種の文明病であるだけ、家庭と学校ともどもに根気よくつき合う必要がある。その他、子のことで困っている親がいたら、ご紹介くださるようお願いしたい。

### 51年度来談状況

主 訴	情 緒 障 害					知能 障 害	言語 障 害	反社 会的 行 為	そ の 他	合 計	面 接 延 数
	登校 拒否	夜尿 車酔	かん 黙	自閉 症	そ の 他						
件数	50	26	4	7	53	24	25	32	6	234	2446

## 教育工学研究室

吉 富 庸四郎



一人ひとりが、生きる学習指導法の改善を目指して忙裡 閑を偷む  
昭和40年代に入ってから、わが国の教育界には教育の目標・内容・方法等全面にわたって教育革新の機運がみなぎり、当教育センターにも昭和50年4月「教育工学研究室」が誕生し、早くも3年目を迎えた。

この2年間で、2研究員・1研修員、そして当研究室関係講座受講者は、小・中・高校合わせて140余名が教育の現代化に立って、研究・研修を深められ、現在も実践中である事は、誠に力強い事である。

さらに、私の研究室には、年間を通じ各地域からの随時研修や、要請出向の研修会等センターの研修講座以外の指導助言の機会が極めて多く、それは教育工学研究室への期待の大きい事を意味している証左であろう。また、本県の学校教育の重点目標として「一人ひとりの生きる魅力ある学校」を掲げ、現場の研究テーマも「一人ひとりが生きる」、「一人ひとりが伸びる」等に重点を当てた学習指導法の研究が多く見られる現在、私達は、今後も現場と密接な共同研究体制をとり、「遠く驥驥を求めて、近く東隣に在るを知らず」というような教育工学研究室の存在にならないよう、教育の現代化という総合的な教育構想に立ったシステムの確立のために、今よりも一層研鑽を深めて、全県に奉仕する必要を感じている。

以上のような事から、教育工学研究室の研究テーマも、教授・学習過程に教育工学的手法をとり入れた指導法の改善に重点を置き、岡部・後藤両研究員も含めた3人のスタッフに、5月から5ヶ月研修に来ている佐藤研修員も加え、現在大いに奮闘中である。

4人の研究・研修領域は、教育工学的手法を用いた「自然認識学習」（吉富）、「中学校理科第1分野」（岡部）、「中学校数学 関数」（後藤）、そして「小学校高学年社会科」（佐藤）について、それぞれ究明中であるが、理想を追い過ぎて、足が地に着かない研究・研修にならないように、静止——思考——修正——実践のフィードバックをもって、着実に進めてきている。

## 理 科 研 究 室

田 沼 浩 三



## — 理科研修講座について —

理科研修講座（23講座）を研修目的で分けると次のようになる。

- (1) 理科教育現代化の考え方を取り入れ、それに即した指導法と実技・実験法の工夫等に重点をおいたもの（中・高校理科教育現代化講座、理科教育講座、小・高校理科研修講座）
  - (2) 基本的な実験・観察、機械・器具の取り扱いに重点をおいたもの（小学校女教員理科研修講座）
  - (3) 野外観察と資料収集に重点をおいたもの（野外観察研修講座〈生物・地学〉、天体観測研修講座）
  - (4) 機械・器具の操作、教具製作など基礎技術の習得に重点をおいたもの（小・中・高校理科基礎講座）。
- それぞれの講座については、講座のたびごと受講された先生方からご意見やご希望をお寄せいただき、次年度の講座企画の手がかりにしている。本年度の講座では特に次のようなことを考慮し、先生方の要望に 대응することにした。

- ・ 野外観察研修講座、理科基礎講座、天体観測研修講座を昨年同様希望者対象の講座にした。
- ・ 研修期間の長い、理科教育講座、理科教育現代化講座を前期と後期に分けた。
- ・ 地学の野外観察を2会場（岩見三内、真木溪谷）にし、できるだけ多く参加できるようにした。
- ・ 理科の実習助手を対称とする講座（理科基礎講座）を2講座もうけ、基礎技術の習得を目ざした。

## — 児童・生徒理科学研究発表大会について —

この発表大会は、秋田県教育研究会理科部会との共催で行われているが、本年度は、11月7日（小学校）8日（中学校）、9日（高等学校）実施の予定である。

これまで、年々発表数が増えており、テーマの取り上げ方や研究のすすめ方、発表技術などの向上が目立ちよこばしいことである。ただ、一部の地区で代表が同一校に集まりすぎることや、高校の参加校が限定されているなどの問題点もある。

本年度の実施要項は、これから各校に配布されるがすべての学校の児童・生徒に参加の機会が与えられるよう、積極的なご指導をお願いしたい。

## 技術家庭研究室

佐 藤 温



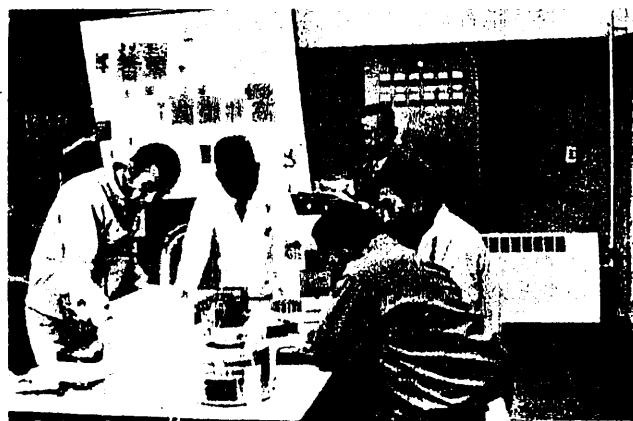
## — 「手びき」の刊行 —

当研究室では、昭和50年度から3年計画で「中学校技術・家庭科施設・設備管理運営の手びき」の刊行を計画し作業を進めている。

この「手びき」については、技術・家庭科の目標を達成するために必要な施設・設備のあり方や、その管理運営のしかたについて指針の役目を果たすようなものにしたいと考えている。例えば、設備では、それぞれの領域や分野の窓から具体的に、工具等の正しい使い方、機械の操作法、安全指導の対策、規格や品質の見分け方など現在手薄と思われるところを重点的に集録するつもりである。

昨年度末、全県中学校に技術・家庭科の「施設・設備」に関するアンケートを依頼したところ、回収率は100%であった。また貴重な資料も沢山提供していただいている。心から謝意を表するしだいである。

## — 研 修 関 係 —



48年から実施している希望者対象の教材研修講座は授業に直結する内容を取りあげている。実施内容は学校に配布されている講座案内にくわしく記載されているが、できるだけ多くの先生方の参加を期待している。

随時研修（地区又は学校等を単位とする自主研修）には、昨年度は中学校技術・家庭科研究会南秋支部が来所、回路計を使った簡易熱電温度計の製作（男子）導通テストの製作（女子）を行った。高等学校家庭部会も数回来所、研修している。本年度もいくつか申込みを受けているが、基礎実験や教材教具の製作などのために当研究室の設備をできるだけ利用いただきたい。

## 昭和52年度研修員とテーマ紹介

昭和52年度の研修員には、小・中学校から11名、県立学校から4名と、合計15名の先生方が決定した。いずれの先生方も、現場での教育実践や、教育研究に立派な実績をあげており、意欲的な研修をなさっている方々ばかりである。

去る5月2日に入所式を終え、それぞれテーマも決定し毎日熱心に研修を進めている。入所後の数日は、学校と違った、ベルやチャイムの合図の無い生活に戸惑っている様子も見受けられたが、現在では、センターの生活にもしっかりと溶け込み文献を調べたり、予備調査・予備実験に取り組み、着々と所期の目標に向って研修を進めている。

特に、本年は教育課程の基準の改善に伴い、小・中学校の**新学習指導要領**が作成されることから、当然この事を念頭においた研修でなければならない。

先生方に与えられた5か月の期間を、それぞれの立場で、過去を振り返り、現在を見つめ、将来を展望する絶好の機会とし、みのり多い成果を取めて終えることを期待したいものである。なお、9月22日(休)には研修成果の発表を行う予定である。(5.20)

### 経営研究室

- 東由利町立東由利中学校 教諭 佐々木康三  
クラブ活動における指導上の問題点とその改善  
—クラブ選択指導と活動のすすめ方について—

### 教科研究室

- 東成瀬村立岩井川小学校 教諭 佐藤 良  
小学校音楽教育における器楽の表現力を高めるための指導法について  
—金管楽器の導入を中心として—
- 雄和町立雄和中学校 教諭 七尾 晃朗  
立体的造形の指導に関する研修  
—屋外彫刻(モニュメント)を中心として—
- 県立男鹿高等学校 教諭 池田 柁博  
英語の口頭発表力の測定と評価

### 教育相談研究室

- 本荘市立新山小学校 教諭 太田テル子  
自閉的傾向のある子どもの行動観察とその考察  
—Y・S児のフレイセラビィを中心として—
- 県立大館工業高等学校 教諭 奈良 伯夫  
高等学校における問題行動をもつ生徒の実態とその指導のあり方について



### 教育工学研究室

- 角館町立角館小学校 教諭 佐藤 利行  
社会科学習における個別化について  
—第5学年「農業学習」を通して—

### 理科研究室

- 県立大曲高等学校 教諭 三浦 栄基  
電流がつくる磁界に関する実験の検討  
—中学校理科の内容との関連に基づいて—
- 五城目町立馬場目小学校 教諭 北条 孝造  
「塩酸とアルミニウムの反応」の指導について  
—導入のための実験法の検討を中心として—
- 鷹巣町立鷹巣中学校 教諭 小林 俊英  
水の合成を指導する実験器具について
- 県立横手東高等学校 教諭 今野 郁  
高等学校における「海藻教材」の検討  
—郷土沿岸資料を中心として—
- 横手市立横手南小学校 教諭 古谷 純二  
横手市及びその周辺の地質的な素材の取り扱いについて

### 技術家庭研究室

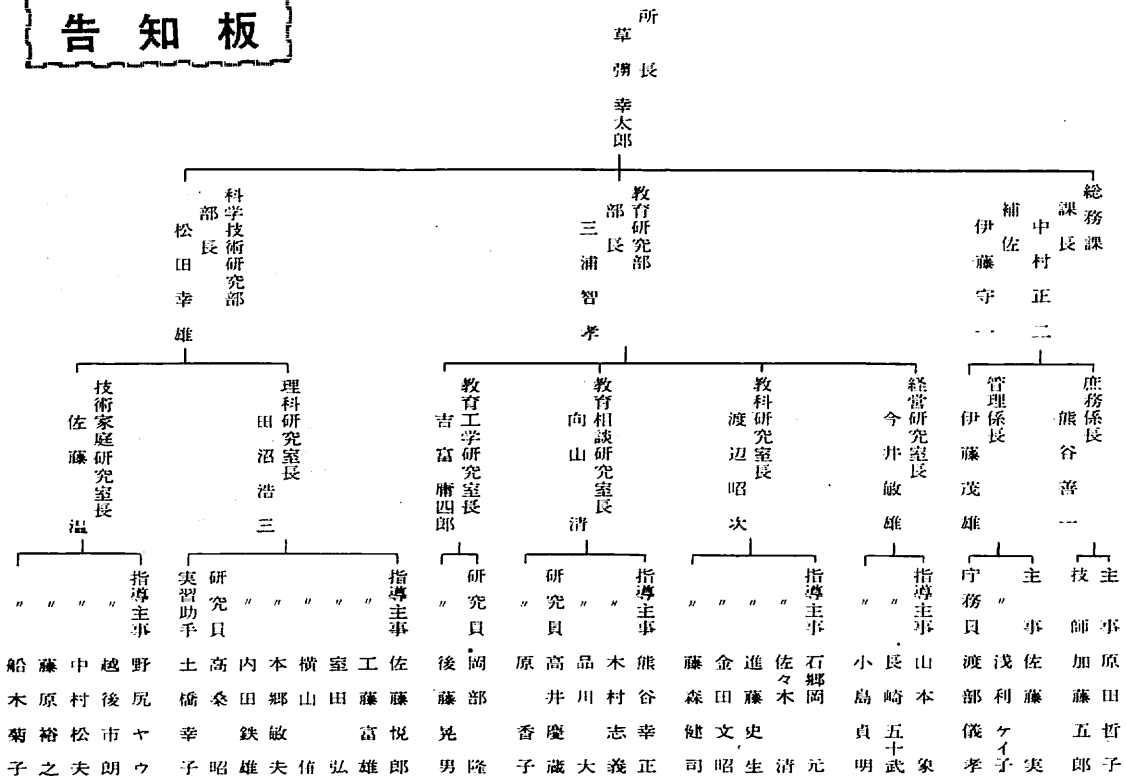
- 鹿角市立十和田中学校 教諭 萩野 精一  
切削加工の指導について  
—旋盤による切削を中心として—
- 秋田市立城南中学校 教諭 池田 純雄  
機械のしくみを理解させるためのくふう  
—巻掛け伝動を中心として—
- 仙北町立仙北中学校 教諭 中山 翠  
被服製作題材の検討  
—第1学年を中心として—

告 知 板

秋田県教育センター機構と担当者一覧

(昭和五十二年四月一日現在)

所在地 秋田市仁井田緑町四番二号  
TEL (〇一八八) 三二三五九四



人 事 異 動

〈転任〉

総務課長	相馬 太二郎	盲学校事務長へ
科学技術研究部長	佐々木 市郎	大曲工業高教頭へ
経営研究室長	三浦 万蔵	大森山少年家所長へ
指導主事	笹岡 昭平	附属中教諭へ
"	佐藤 雪男	社会教育課社教主事補へ

〈新任〉

総務課長	中村 正二	本荘養護学校事務長から
指導主事	藤原 裕之	由利工業高教諭から
"	長崎 五十武	秋田市教委指導主事から
"	金田 文昭	能代高教諭から
"	内田 鉄雄	羽城中教諭から
研究員	高井 慶蔵	角館中教諭から



(中村) (藤原) (長崎) (金田) (内田) (高井)

〈所内〉

科学技術研究部長	松田 幸雄	技術家庭研究室長から
経営研究室長	今井 敏雄	指導主事から
技術家庭研究室長	佐藤 温	指導主事から

・理科研究発表大会のお知らせ

本年度も、教育センターを会場にして11月7日から3日間理科研究発表大会を開催することになりました。7月上旬に発送する第12回全県小・中・高等学校児童・生徒理科研究発表大会開催要項をご覧の上、多数ご参加下さるよう期待しています。

・所員研究発表会のお知らせ

本年度の所員による研究発表は、昭和53年2月3日(金)に行くことになりました。発表者は次の通りです。多数のご参加をお待ちしております。

教育研究部

藤森健司、小島貞明、熊谷幸正、原香子、岡部隆、後藤晃男

科学技術研究部

田沼浩三、中村松夫、高桑昭

・センターの宿泊施設の利用申し込みについて

ご利用の方は原則として「ハガキ」で5日前まで申し込むことになっております。詳しいことは講座案内の6頁を参照してください。準備の都合もありますので、できるだけ当日の申し込みは避けてください。なお宿泊料は本年度から1泊2食付で1,400円です。

教育センターだより 第19号

発行年月日 昭和52年6月 日  
編集発行者 秋田県教育センター  
秋田市仁井田緑町4番2号